

小坂 章則 社長

福山市新浜町1-2-7

TEL: (084) 953-7788

●資本金:1500万円 ●従業員:19人

飲料・食品業界に向けて、充填機やプラスチック容器を開発・製造し、同業界発展の一翼を担っている。そのシェアは九〇%以上を占め、国内トップ。最近では開発、技術力を生かして医療・福祉、健康食品分野に進出。使い勝手のいい栄養補助食品の容器を商品化するなど市場の拡大を図っている。

創業は1947年。当初は、ラムネやサイダーなどをびんに充填する機械を製造していた。その後、びん入り飲料の需要は低迷。そこでジュースや水アイスを入れるプラスチック容器や

に送った。「チューチュー」と呼ばれていた清涼飲料水の容器だ。「中央部にくびれをつけたのがミンで、凍らせて二つに割って食べた人は多い」と小坂社長。各家庭に冷蔵庫があるという時代背景もあって飛ぶように売れた、と振り返る。

その際に使う充填機の製造へと約二〇年前に転換した。「飲料業界における充填機の購入は、いわゆる設備投資。そのため経済動向に左右され、特に同業界では冷夏など季節により、波がある」と小坂章則社長。充填機の製造だけにとまらず、容器の製造を始めたのは継続的に売り上げが確保できる、との読みがあったからだ。

容器の製造に乗り出して間もなく、爆発的なヒット商品を世

## 飲料・食品業界に

## 高い技術力で貢献

その要因を「中央部にくびれをつけた時に強度を生み、撤送時に形崩れしない。消費者からは「冷凍すると半分に割って食べられる」と好評を得た。」などと分析。自社で開発した独自の充填方式を採用したことが功を奏した、という。その方式は容器内の空気を抜いて、充填する方法で、速度を従来のやり方比に比べ四〜五倍高めた。バキューム充填方式としており、78キーンに特許を取得した。同社は、そうし高い技術力で、ラムネのビー玉をノズルで効果的に洗う装置の開発をはじめ、今までに約五〇件もの特許を取得。「同業他社がマネのできないことをやっている」と小坂社長は胸を張る。

機械部門と容器部門の売り上げが高かったが、去年からは機械が伸びている。中国など東南アジアを中心とした海外からのブランド受注が活発化。現在の比率は機械五五%、容器四五%



各種容器

と括弧。台湾に本社を置く総合食品メーカーの旺旺グループへの取り引きが大きく、機械部門の比率を押し上げており、今後とも充填機を輸出している二〇カ国の海外市場に期待している。

国内市場へ向けては患者や要介護者でも栄養剤などが簡単に飲むことができる容器を開発。さらに健康食品分野へは豆乳の容器を商品化し、それぞれの分野へ投入した。「豆乳容器に入れる中身は底にある穴から充填するため、密封性が高く賞味期限はキャップ方式に比べ約二倍」と説明。同社の方針である充填機とのセット販売を行っていること。小坂社長が展開していることがあり、これまでもがそうであったように時代のニーズに対応した経営戦略といえよう。



小坂章則社長